

日時

2023年11月7日(火)
12:40▶13:30

会場

第3会場

万国津梁館 1F
オーシャンホールB
〒905-0026
沖縄県名護市喜瀬1792番地



「社会的ひきこもり」の 新たな精神医学的位置付けと 治療的アプローチ

座長

順天堂大学医学部精神医学講座/大学院医学研究科精神・行動科学 主任教授

加藤 忠史 先生

演者

九州大学 大学院医学研究院 精神病態医学 准教授

加藤 隆弘 先生

ご参加の皆様には、お弁当をご用意しております。(数に限りがあります)

共催：第45回日本生物学的精神医学会年会/
ヴィアトリス製薬株式会社/住友ファーマ株式会社

「社会的ひきこもり」の 新たな精神医学的位置付けと 治療的アプローチ

加藤 隆弘 先生

九州大学 大学院医学研究院 精神病態医学 准教授

「社会的ひきこもり（hikikomori）」は6ヶ月以上にわたり社会参画せず自宅に留まり続ける状態といわれており、ひきこもり状況にある人（ひきこもり者）は国内140万人¹⁾を越え、その対応は国家的喫緊の課題である。国外でもその存在が明らかになり、2022年にはDSM-5-TRにhikikomoriとして掲載され、国際的にも注目されている。演者は、大学病院に気分障害ひきこもり外来を立ち上げ、生物心理社会的理解に基づく治療法・支援法の開発を進めている。これまでの研究で、ひきこもりの背景にうつ病・不安症・発達障害など様々な精神疾患の併存、血液バイオマーカー候補、そして心理社会的因子を予備的に同定してきた。本セミナーでは、ひきこもりの多面的な評価システムを紹介し、特に抑うつや発達障害を併存するひきこもり者へのくすりや精神療法の併用による治療的アプローチを紹介する。

1): 内閣府2023年3月